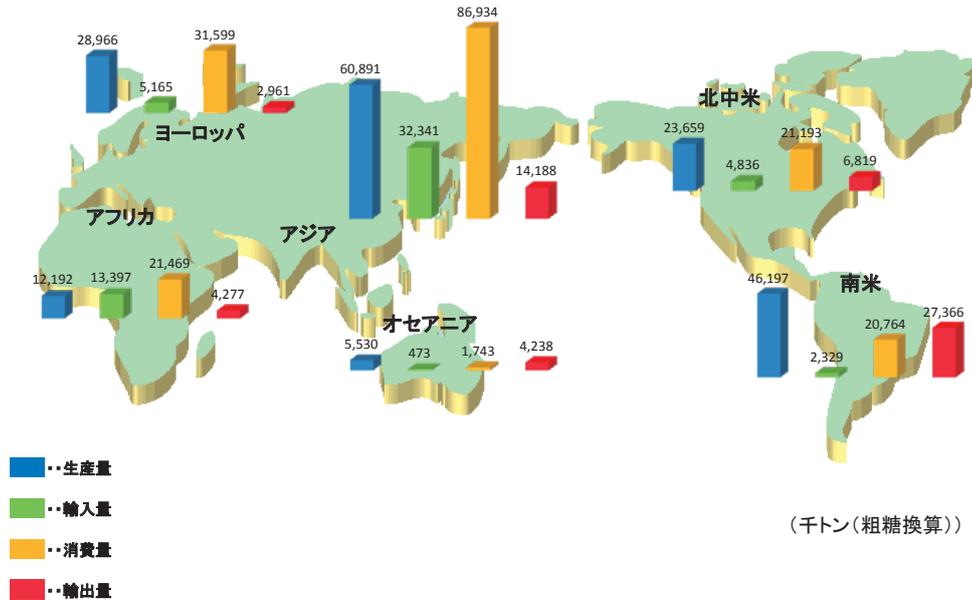


砂糖の国際需給

調査情報部 根岸 淑恵

1. 世界の砂糖需給 (2016年12月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2016/17年度予測値)



資料：Agra CEAS Consulting※「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,December 2016」
 (※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社)
 注1：年度は2016年10月～翌9月。
 注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン (粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1988/89	37,029	104,469	26,514	107,025	25,510	35,477	33.1
1993/94	38,687	111,631	31,183	112,637	32,845	36,020	32.0
1998/99	47,513	135,418	39,767	125,645	42,435	54,618	43.5
2003/04	66,547	143,844	46,336	141,913	49,194	65,620	46.2
2008/09	71,448	151,609	49,876	161,864	50,977	60,092	37.1
2012/13	63,965	184,182	59,214	171,672	61,611	74,077	43.2
2013/14	74,077	181,466	58,562	175,764	59,245	79,097	45.0
2014/15	79,097	180,960	58,539	178,828	59,632	80,135	44.8
2015/16	80,135	174,673	62,275	181,051	66,201	69,832	38.6
2016/17 (2016年9月予測)	70,409	174,760	58,542	183,550	58,669	61,493	33.5
2016/17 (2016年12月予測)	69,832	177,435	58,541	183,701	59,849	62,258	33.9

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,December 2016」
 注1：年度は国際砂糖年度 (10月～翌9月)。
 注2：2013/14年度から2015/16年度までは推定値、2016/17年度は予測値である。
 注3：期末在庫量は (期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量) である。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2017年4月号の掲載予定となります。直近の内容は2017年1月号をご参照ください。

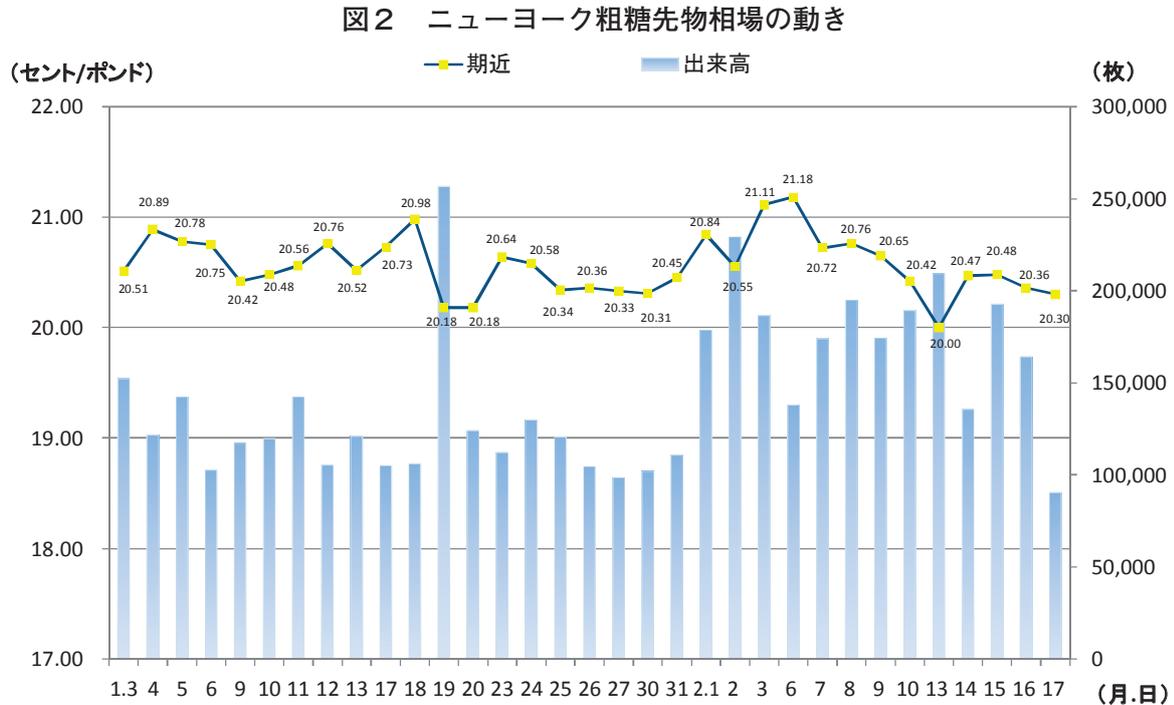
「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001403.html

「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001404.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き（1/3～2/17）

～インドの生産動向および輸入関税への関心を背景に20セント台を維持～



ニューヨーク粗糖先物相場（期近3月限）の2017年1月の推移を見ると、インドの砂糖主産地であるマハラシュトラ州の製糖工場が、サトウキビ生産量の減少により早期に操業を停止したことなどが押し上げ要因となり、4日は1ポンド当たり20.89セントの値を付け、その後も高値で推移し18日には同20.98セントに上昇した。しかし、ブラジルや中国での増産見通しにより砂糖需給のひっ迫感が和らいだことから、19日は同20.18セントに値を下げた。23日は、インドの砂糖生産量が当初の予想より下方修正されるとの見通しから、同20.64セントの値を付けたが、その後は弱含みで推移し、31日は同20.45セントとなった。

2月に入ると、インドのマハラシュトラ州に加え

て、カルナカタ州でも製糖工場がサトウキビ生産量の減少により早期の操業終了を余儀なくされたことから、1日は同20.84セントの値を付けた。2日は反落したものの、砂糖生産量の減少によりインドの国内価格が上昇しており、かねて同国政府が検討している輸入関税の撤廃もしくは引き下げの可能性が高まったことで砂糖需給のひっ迫化が再び見込まれたことから、6日は同21.18セントまで上昇した。しかし、同国の砂糖輸入量は市場の予想に反して、150万トン程度にとどまるとのインド砂糖貿易協会の予測に、相場はその後下落傾向で推移し、13日は同20.00セントまで値を下げ、17日は同20.30セントとなった。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2017年2月時点予測）

ブラジル

2016/17年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：911万ha（前年度比5.3%増）

生産量：6億8195万トン（同2.5%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：4050万トン（同15.1%増）

輸出量：2870万トン（同14.2%増）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量はともにかなり増加の見込み

英国の調査会社Agra CEAS Consulting（農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社）の2017年2月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく）、2016/17砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、収穫期の天候不順などにより前年度に収穫しなかったものも含まれるため、911万ヘクタール（前年度比5.3%増）とやや増加が見込まれるものの、サトウキビの新植が進まず単収の低下が見込まれることから、生産量は6億8195万トン（同2.5%増）と、わずかな増加にとどまると見込まれている（表2）。

一方、国際砂糖価格の上昇により、企業がサトウキビの砂糖への仕向け割合を増やしていることや製糖歩留まりが向上していることなどから、砂糖生産量は、4050万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）、同15.1%増）とかなりの増加が見込まれている。さらに、連邦政府が、エタノール販売に係る社会負担税を1月より再導入したことから、今後、企業がサトウキビの砂糖への仕向け割合をさらに増加させる可能性も考えられる。砂糖の増産に伴い、輸出量も2870万トン（同14.2%増）とかなりの増加が見込まれている。

他方、ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）^{（注1）}が2016年12月中旬に公表したサトウキビなどの2016/17年度生産見通しによると、サトウキビ栽

培面積は911万ヘクタール（同5.3%増）、生産量は6億9454万トン（同4.4%増）と、ともにやや増加が見込まれている。これは、収穫期の天候不順などにより前年度に収穫しなかった分も考慮されていると考えられる。また、砂糖生産量は3981万トン（同18.9%増）と大幅な増加が見込まれるのに対し、エタノール生産量は2786万キロリットル（同8.5%減）と、かなりの減少が見込まれている。

また、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）^{（注2）}が発表した2016年4月～翌1月の生産実績報告によると、同国中南部地域のサトウキビ圧搾量は、5億9382万トン（前年同期比0.1%減）と前年度並みであったものの、砂糖生産量は3525万トン（同15.4%増）とかなり増加した。これは、サトウキビ1トン当たりの産糖量が59.4キログラム（同15.5%増）とかなり増加していることや、企業が砂糖への仕向け割合を増やしているためとみられる。

なお、同報告によると、エタノール生産量は、2502万キロリットル（同8.0%減）とかなり減少した。また、輸出量も含めたエタノールの販売量は、2221万キロリットル（同11.6%減）となった。このうち、含水エタノール^{（注3）}の国内販売量は、在庫量の減少などに伴い、エタノール価格が高騰したため、1243万キロリットル（同17.9%減）であった。石油・天然ガス・バイオ燃料監督庁（ANP）によると、1月の含水エタノール小売価格（サンパウロ州）は、1リットル当たり2.78リアル（103

円（2017年1月末日TTS：1リアル=37円）と、ガソリン小売価格の同3.63リアル（134円）の70%（注4）を上回っている。このため、含水エタノールのガソリンに対する優位性は低下していると考えられる。

また、現地報道によると、連邦政府は2010年から強化している外国資本による農業用地の購入に係る規制の緩和を検討している。その中で、国外の企業や投資家に対し、最大10万ヘクタールの購入上限を設定することが検討されており、3月中旬以降に法案が提出されるものとみられる。なお、砂糖・エタノール業界などは、以前から外国資本参入の規制緩和を要望しており、今回の法改正が実現となれば産業への投資が活発になるとして期待を寄せている。

の投資が活発になるとして期待を寄せている。

（注1）主要作物の生産状況報告や予測などを行っているブラジル農務省直轄の機関。

（注2）ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

（注3）自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の2種類がある。含水エタノールは製造段階で蒸留した際に得られた水分を5%程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%としたもので、ガソリンに混合して利用される。

（注4）一般的なフレックス車のエタノール燃料効率がガソリンの70%程度とされていることから、消費者の購入判断の基準となっている。

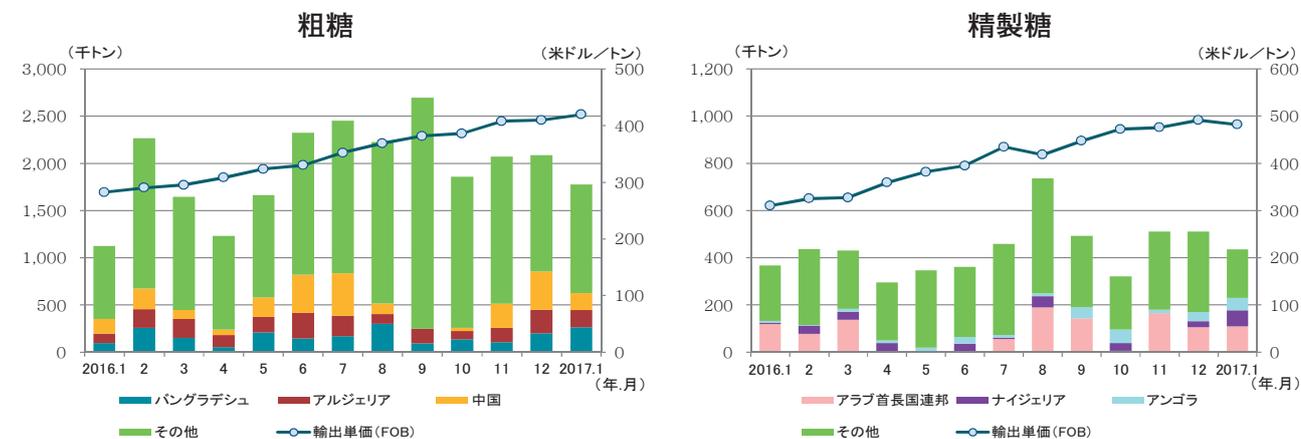
表2 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (1月予測)	2016/17 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,811	9,004	8,655	9,111	9,111	5.3	
サトウキビ生産量	658,822	634,767	665,586	681,952	681,952	2.5	
砂糖	生産量	39,494	37,313	35,194	40,300	40,500	15.1
	輸入量	-	-	-	-	-	-
	消費量	12,640	12,400	12,000	12,000	12,000	0.0
	輸出量	27,053	24,666	25,124	28,048	28,700	14.2
	期末在庫量	2,296	2,543	613	865	413	▲ 32.6
	期末在庫率	18.2	20.5	5.1	7.2	3.4	▲ 32.6

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, February 2017]

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：[Global Trade Atlas]

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：474万ha（前年度比6.2%減）
生産量：3億3193万トン（同7.5%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：2450万トン（同10.5%減）
輸出量：110万トン（同73.2%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり減少、輸出量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、サトウキビ収穫面積は474万ヘクタール（前年度比6.2%減）、生産量は3億3193万トン（同7.5%減）と、ともに干ばつの影響によりかなりの減少が見込まれている。このため、砂糖生産量も、2450万トン（同10.5%減）とかなりの減少が見込まれている（表3）。

さらに、インド砂糖製造協会（ISMA）が発表した2016年10月～翌1月の生産実績報告によると、砂糖生産量は、精製糖換算で1286万トン（前年同期比10.0%減）となった。このうち、サトウキビ栽培面積が拡大し、最大の生産州になると見込まれているウッタルプラデシュ州では456万トン（同26.9%増）と大幅に増加した一方で、干ばつの影響により、カルナタカ州では203万トン（同24.8%減）、グジャラート州では58万トン（同17.7%減）と、それぞれ大幅に減少した（図3）。特に、例年11月～翌4月にかけて操業を行うマハラシュトラ州では、サトウキビの減産に伴い、製糖工場の8割以上が2月中旬までに操業を終えており、砂糖生産量は、368万トン（同32.1%減）と大幅な減少が見込まれている。

また、同国では、砂糖の減産により2015年末から国内の砂糖価格が高騰しており、中央政府は、国内市場での砂糖の流通量を増やし、価格の安定化を図ることとしている。このため、中央政府は2016年6月中旬以降、粗糖を輸入して6カ月以内に再輸

出する精製糖や2500トンのオーガニックシュガーを除いた砂糖の輸出に対し、輸出関税（20%）を導入している。さらに、製糖企業に対する砂糖在庫量の上限^(注)を4月まで設定することとしている。これらにより、砂糖輸出量は、110万トン（前年度比73.2%減）と大幅な減少が見込まれている。

一方、砂糖輸入量は、250万トン（同31.3%増）と大幅な増加が見込まれており、同国は純輸出国から純輸入国へと転ずる可能性が高まっている。この背景には、中央政府がかねて検討している輸入関税の撤廃もしくは引き下げが実施される見通しなどがある。

現地報道によると、砂糖生産量の減少に伴い在庫量の大幅な減少が見込まれることから、中央政府は輸入関税の撤廃もしくは引き下げを4月中旬までには決定するとの見方が強まっている。しかし、輸入関税が撤廃もしくは引き下げられることとなれば、海外産砂糖の需要が高まり、製糖企業の収入減が見込まれるため、製糖企業から生産者へのサトウキビ代金支払いの遅延が懸念されるとして、ISMAは反発している。

(注) 中央政府は、貿易業者に限定していた砂糖在庫量の上限設定を製糖企業にも適用することとし、各製糖企業が保持できる在庫量は、2016年9月末時点では2015/16年度の砂糖生産量の37%、同年10月末時点では同24%を上限と設定していた。

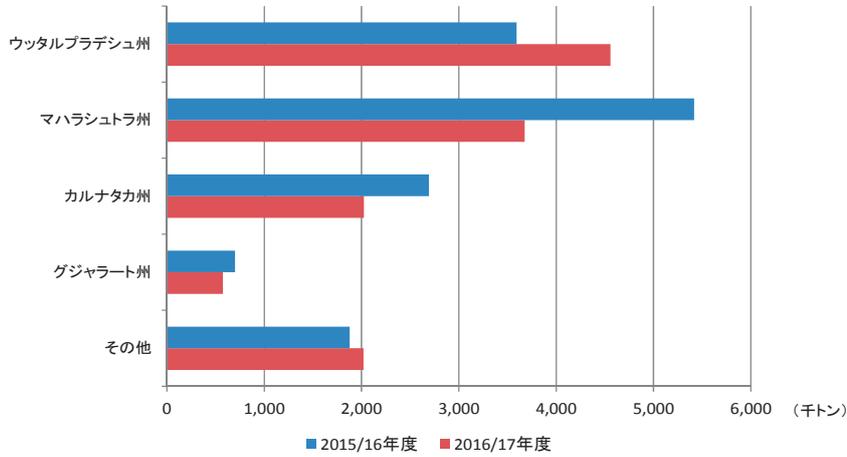
表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (1月予測)	2016/17 (2月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	5,060	5,060	5,055	4,739	4,739	▲ 6.2
サトウキビ生産量	341,200	362,333	358,891	331,926	331,926	▲ 7.5
砂糖	生産量	26,580	30,616	27,372	24,500	▲ 10.5
	輸入量	1,349	1,303	1,904	1,300	31.3
	消費量	26,295	27,842	27,826	28,200	1.3
	輸出量	2,742	2,608	4,105	1,300	▲ 73.2
	期末在庫量	8,223	9,692	7,036	3,397	▲ 32.7
	期末在庫率	31.3	34.8	25.3	12.0	▲ 33.6

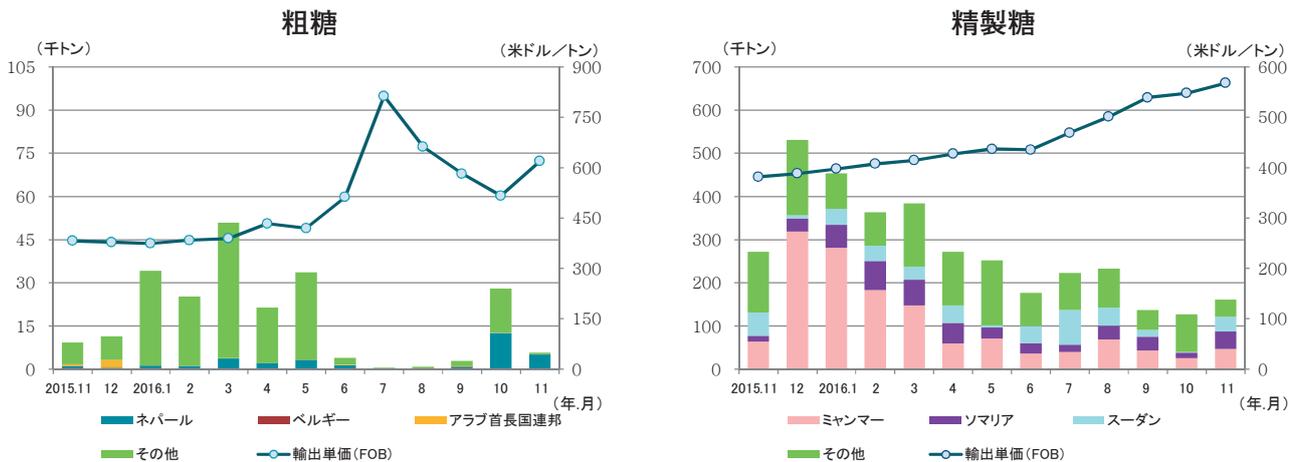
資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, February 2017]

図3 インドの地域別甘しゅ糖生産実績 (10月～翌1月の生産量)



資料：ISMA
注：精製糖換算。

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ・てん菜】

収穫面積：183万ha（前年度比10.0%増）・15万ha（同10.0%増）
生産量：1億2652万トン（同7.9%増）・771万トン（同5.0%増）

【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】

生産量：1087万トン（同14.9%増）
輸入量：370万トン（同40.3%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、サトウキビについては、収穫面積が183万ヘクタール（前年度比10.0%増）、生産量が1億2652万トン（同7.9%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている。これは、最大生産地域である広西チワン族自治区や海南省における栽培面積の増加に加えて、良好な生育状況が要因である（表4）。

てん菜についても、収穫面積は15万ヘクタール（同10.0%増）とかなり増加し、生産量は771万トン（同5.0%増）とやや増加が予想されている。これは、主要生産地である内モンゴル自治区の増加などが要因である。これらにより、砂糖生産量は、1087万トン（同14.9%増）とかなりの増加が見込まれている。

また、中国砂糖協会（CSA）が発表した2016年10月～翌1月の生産実績報告によると、砂糖生産量は精製糖換算で454万トン（前年同期比7.8%増）とかなり増加した（図4）。これは、サトウキビお

よびてん菜の栽培面積拡大により、甘しや糖が361万トン（同6.3%増）、てん菜糖が93万トン（同14.3%増）と、ともにかなり増加したことによる。

なお、CSAが先に発表した2016/17年度の砂糖生産見通しによると、精製糖換算で、甘しや糖が896万トン（前年度比14.1%増）、てん菜糖が104万トン（同22.4%増）とともに増加し、全体で1000万トン（同15.1%増）とかなりの増加が見込まれている。特に、広西チワン族自治区の甘しや糖生産量は600万トン（同17.4%増）、内モンゴル自治区のてん菜糖生産量が47万トン（同65.5%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。

さらに、中央政府は1月、備蓄砂糖約25万トンを国内企業へ売り渡した。これにより、2016年10月から4回の入札が実施され、1月時点で合計約65万トンが企業に売り渡されたこととなる。CSAは2016/17年度に200万トン程度、2017/18年度も同程度の備蓄砂糖の放出を見込んでいる。このため、砂糖輸入量は、370万トン（同40.3%減）と大幅な減少が見込まれている。

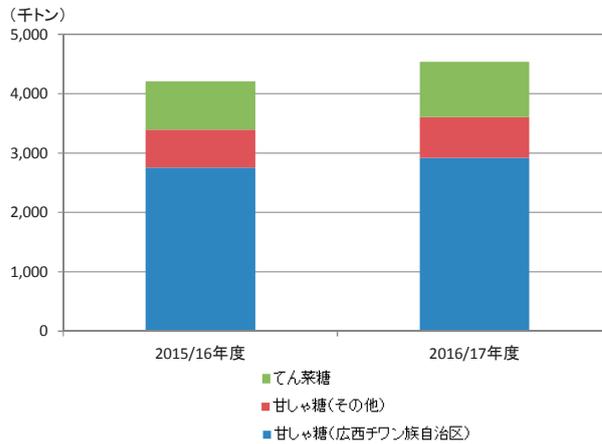
表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (1月予測)	2016/17 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,819	1,760	1,660	1,827	1,827	10.0	
サトウキビ生産量	125,536	125,611	117,295	126,522	126,522	7.9	
てん菜収穫面積	182	139	135	149	149	10.0	
てん菜生産量	9,260	8,000	7,337	7,705	7,705	5.0	
砂糖	生産量	14,476	11,474	9,459	10,869	10,869	14.9
	輸入量	4,054	5,354	6,199	3,546	3,700	▲40.3
	消費量	16,150	16,600	17,065	17,250	17,250	1.1
	輸出量	51	64	167	84	80	▲52.2
	期末在庫量	7,141	7,305	5,731	2,812	2,970	▲48.2
	期末在庫率	44.2	44.0	33.6	16.3	17.2	▲48.7

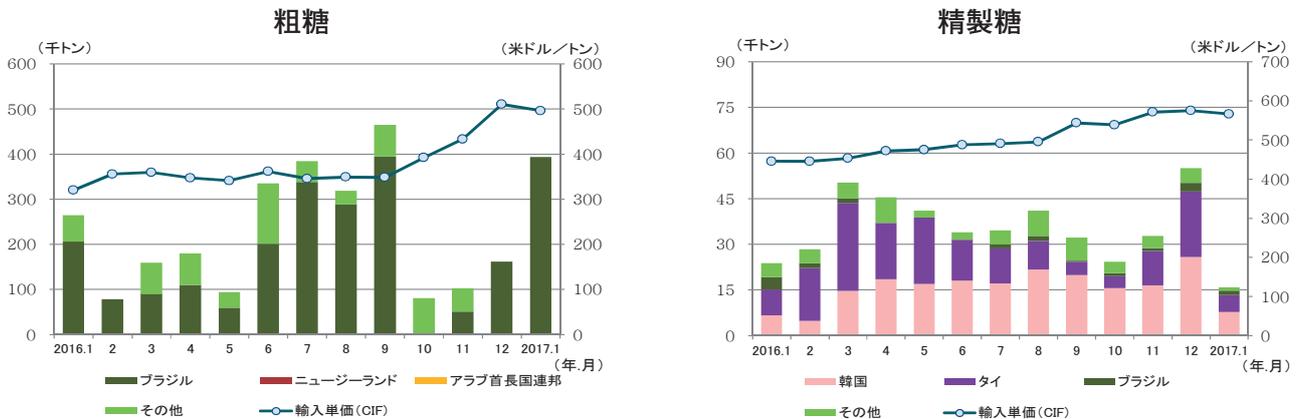
資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, February 2017]

図4 中国の砂糖生産実績（10月～翌1月の生産量）



資料：CSA
注：精製糖換算。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：[Global Trade Atlas]

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

E U

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：159万ha（前年度比10.8%増）
生産量：1億1218万トン（同6.7%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1752万トン（同18.8%増）
輸入量：339万トン（同9.0%減）

2016/17年度の砂糖生産量は大幅増、輸入量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、てん菜収穫面積が159万ヘクタール（前年度比10.8%増）、生産量は1億1218万トン（同6.7%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている（表5）。2017年10月以降の生産割当の廃止を目前に、生産量上位国であるフランスやドイツでは、在庫増への懸念から栽培面積の拡大に慎重になっているとみられる一方、ポーランドやオランダなどでは栽培面積を前年度から約2割増加させるなど、積極的に増産する動きも見られている。記録的な生産量となった

2014/15年度に比べ、春先の低温や降雨のため単収が低下すると見込まれているものの、前年度と比べて産糖量の増加が見込まれていることなどから、砂糖生産量は、1752万トン（同18.8%増）と大幅な増加が見込まれている。

砂糖の増産に伴い、砂糖輸入量は、339万トン（同9.0%減）とかなりの減少が見込まれている。

一方、欧州委員会が2016年12月下旬に公表した2016/17年度の生産予測によると、砂糖生産量は精製糖換算で1666万トン（同11.6%増）とかなり増加し、砂糖輸入量は350万トン（同0.3%増）と前年度並みにとどまると見込まれる。

表5 EUの砂糖需給の推移

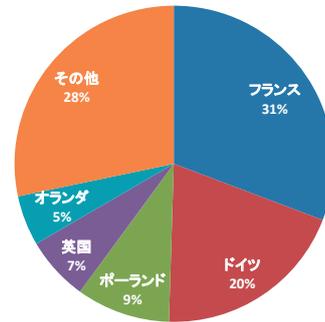
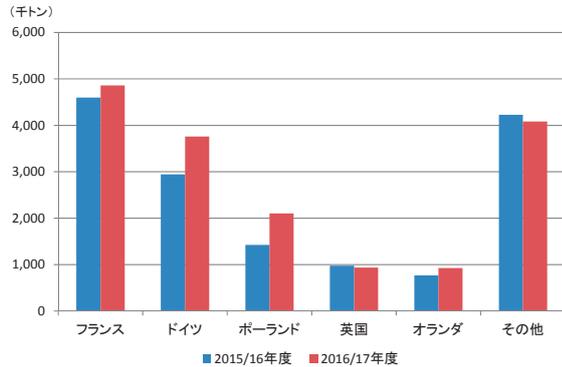
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (1月予測)	2016/17 (2月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,578	1,632	1,437	1,592	1,592	10.8
てん菜生産量	108,979	131,009	105,162	112,184	112,184	6.7
砂糖	生産量	16,867	19,318	14,752	17,521	18.8
	輸入量	3,944	3,456	3,725	3,389	▲ 9.0
	消費量	19,268	19,281	19,334	19,429	0.5
	輸出量	1,540	1,558	1,506	1,467	▲ 2.6
	期末在庫量	9,161	11,096	8,733	8,747	0.2
	期末在庫率	47.5	57.5	45.2	45.0	▲ 0.3

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, February 2017」

注：期末在庫量は、非食用などを含む。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見込みおよび生産割合



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2016年9月時点での予測値。

注3：2015/16年度は推定値、2016/17年度は予測値。

注4：生産割合は2016/17年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2017年2月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖（HSコード1701.14-110）および甘しや糖・その他（同1701.14-200）の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2016年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が52.2%（前年比13.2ポイント増）、タイが47.7%（同8.3ポイント減）と、この2カ国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はフィリピンを報告する。

豪州

2016/17年度（7月～翌6月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度比3.2%増）

生産量：3550万トン（同1.9%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：523万トン（同5.8%増）

輸出量：400万トン（同3.8%減）

2016/17年度の砂糖生産量はやや増加するも 輸出量はやや減少の見込み

2016/17砂糖年度（7月～翌6月）は、サトウキビ収穫面積は39万ヘクタール（前年度比3.2%増）とやや増加し、生産量は3550万トン（同1.9%増）とわずかな増加が見込まれている（表6）。

一方、豪州砂糖製造事業者協議会（ASMC）によると、例年10月で終了するサトウキビ圧搾作業が、年明け（1月8日）まで行われ、サトウキビ圧

搾量は3651万トンとなった。これは、ニューサウスウェールズ州や主産地であるクイーンズランド（QLD）州の一部の地域で降雨が続いたことが影響したとみられる。現地報道によると、QLD州北部地域のマックアイでは、過度な降雨による生育不良などから約6万トンのサトウキビの収穫が来年度に持ち越されることとなり、サトウキビ圧搾量が当初計画の7%減となった工場があった。

サトウキビの増産に加え、製糖歩留まりの向上も

見られることから、砂糖生産量は523万トン（前年度比5.8%増）と、やや増加が見込まれている。一方、中国の輸入減少などに伴い、輸出量は400万トン（同3.8%減）と、やや減少が見込まれている。

豪州農業資源経済科学局（ABARES）が2016年12月中旬に公表した2016/17年度の生産予測によると、サトウキビ栽培面積は39万ヘクタール（同3.1%増）とやや増加し、単収の増加により、砂糖生産量は510万トン（同3.7%増）とやや増加が見込まれる。輸出量も405万トン（同2.7%増）と、わずかな増加が見込まれる。

現地報道によると、QLD州野党である自由国民党連合は2月初旬、2017/18年度以降の新たな輸

出契約について、QLD州砂糖公社（QSL）^{（注）}と製糖企業1社に対し、2月中を目途に決着させるよう要請した。当事者間の協議が整わない場合にあつては、両者間の調停を強制的に執行できるよう砂糖産業法の改正案を提出する構えを見せている。これに対して、ASMCは、このような介入は、QLD州の砂糖産業への投資の停滞や製糖企業の経営の妨げにつながるとして懸念を示している。

（注）QLD州産砂糖の輸出を担う公社。同州産砂糖輸出の9割を扱っていたが、2015年の砂糖産業法改正により、2017/18年度以降、製糖企業を介してQSLが輸出する従来の形態に加え、砂糖を輸出する企業を生産者が選択できるようになった。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (1月予測)	2016/17 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	329	363	381	393	393	3.2	
サトウキビ生産量	27,136	32,360	34,827	35,500	35,500	1.9	
砂糖	生産量	4,306	4,773	4,946	5,230	5,230	5.8
	輸入量	159	170	76	140	110	45.3
	消費量	1,345	1,350	1,350	1,355	1,355	0.4
	輸出量	3,066	3,687	4,152	4,008	3,995	▲ 3.8
	期末在庫量	1,162	1,068	587	657	577	▲ 1.7
	期末在庫率	86.3	79.1	43.5	48.5	42.6	▲ 2.1

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, February 2017」

タイ

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：141万ha（前年度比0.2%減）
生産量：1億436万トン（同11.0%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1000万トン（同0.2%減）
輸出量：703万トン（同10.0%減）

2016/17年度の砂糖生産量は前年度並み、輸出量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、サトウキビ収穫面積は141万ヘクタール（前年度比0.2%減）と前年度並みと見込まれる一方、サトウキビの単収の増加が見込まれることから、生産量は1億

436万トン（同11.0%増）と、かなりの増加が見込まれている（表7）。

しかし、長引く干ばつの影響により特に新植サトウキビの生育不良が見られることに加え、長雨により例年より約1カ月遅れの12月上旬からの収穫となったことから、製糖歩留まりの低下が予想され、

砂糖生産量は、1000万トン（同0.2%減）と前年度並みと見込まれている。輸出量は、中国の輸入減少などに伴い、703万トン（同10.0%減）と、かなりの減少が見込まれている。

一方、タイ農業協同組合省農業経済局が先ごろ発表した主要農産物の生産見通しの中で、2016/17年度のサトウキビ収穫面積は、政府による生産者への適地適作の奨励や製糖企業によるサトウキビ栽培への転作促進により、145万ヘクタール（同1.8%増）とわずかな増加が見込まれている。また、生産量は、1億515万トン（同11.7%増）とかなりの増加が見込まれている。これは、サトウキビ生産者の肥培管理などの技術の向上により、単収の増加が見込まれていることなどが要因とされる。砂糖生産量も1094万トン（同11.8%増）とかなりの増加が見込まれており、これに伴い、輸出量も844万トン（同17.4%増）と大幅な増加が見込まれている。

政府は1月、民間企業と共同で、2017/18年度から今後10年かけて同国のバイオ産業を発展させる計画を発表した。同計画では、総額4000億バーツ（1兆3280万円（2017年1月末日TTS：1バーツ=3.32円））近くが投資され、3段階に分けて展開される。第1段階では、まずはバイオ燃料の生産拡大に向け、約510億バーツ（1693億円）が投資され、東部のラヨーン県や北東部のコーンケーン県に精製工場の新設などが予定されている。

さらに、政府は、バイオ製品の原料となるサトウキビやキャッサバの確保のため、コメからの転作を

引き続き積極的に奨励する意向を示しており、計画期間中にサトウキビ栽培面積を256万ヘクタールに拡大することを目標としている。

また、政府は、2017/18年度からの適用を目指し、砂糖産業関連法の改正（注1）に向けた手続きを開始した。この改正によって、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で7：3の割合で分配する現行の収益分配方式や販売割当（注2）を廃止するとともに、政府が設定している国内砂糖価格を固定制から変動制に移行するものとみられる。なお、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）（注3）によれば、変動制は、遅くとも2018年4月までに開始されるとしている。

（注1）タイ政府は2016年4月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補填金や、砂糖の販売割当および国内販売価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たり国際貿易協定に違反しているとして、ブラジル政府からWTOに提訴された。これを受け、タイ政府は同年11月3日、ブラジルとの2国間協議の場に、同年10月中旬に閣議承認された砂糖政策の改革案を提出した。

（注2）タイ産砂糖は、A割当と呼ばれる国内供給向けとB割当およびC割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。

（注3）タイのサトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である3省（工業省（製糖関係）、農業協同組合省（原料作物関係）、商務省（砂糖の売買関係））とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成され、工業省内に設置された「サトウキビ・砂糖委員会（TCSB）」の事務局。

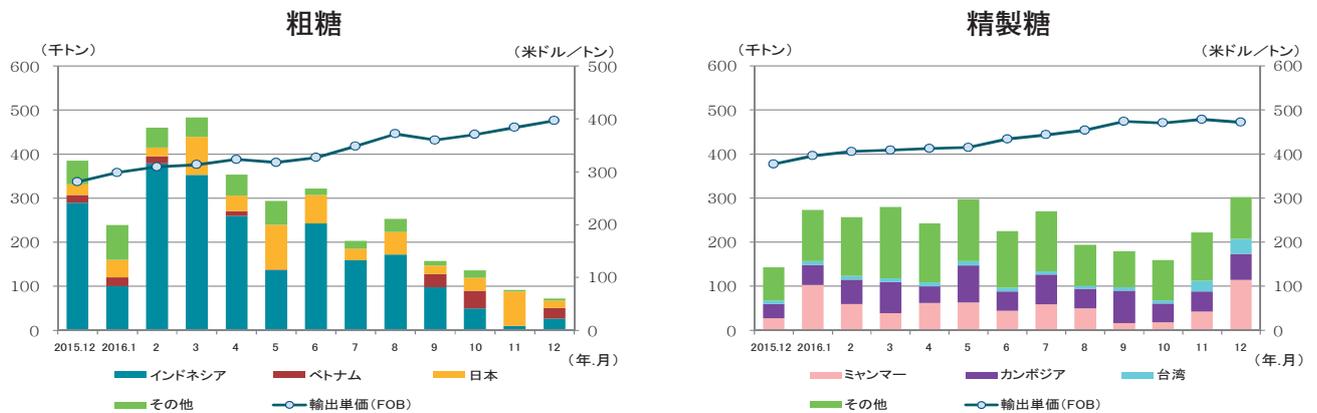
表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (1月予測)	2016/17 (2月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,322	1,403	1,412	1,408	1,408	▲ 0.2
サトウキビ生産量	100,096	105,595	94,047	104,363	104,363	11.0
砂糖	生産量	11,677	11,579	10,025	10,000	▲ 0.2
	輸入量	-	-	-	-	-
	消費量	3,339	3,489	3,500	3,500	0.0
	輸出量	6,457	8,071	7,805	7,091	▲ 10.0
	期末在庫量	5,768	5,788	4,508	3,916	▲ 11.7
	期末在庫率	172.8	165.9	128.8	111.9	▲ 11.7

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, February 2017」

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

フィリピン

2016/17年度（9月～翌8月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：42万ha（前年度比0.4%増）

生産量：3062万トン（同0.7%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：220万トン（同1.7%減）

輸出量：14万トン（同16.7%減）

2016/17年度の砂糖生産量はわずかに減少、 輸出量は大幅減の見込み

2016/17年砂糖年度（9月～翌8月）は、サトウキビ収穫面積が42万ヘクタール（前年度比0.4%増）、生産量が3062万トン（同0.7%減）と、ともに前年度並みと見込まれている。しかし、製糖歩留まりの低下が見られることから、砂糖生産量は220万トン（同1.7%減）とわずかに減少が見込まれている（表8）。

一方、砂糖統制委員会（SRA）^(注)は、2016/17年度の砂糖生産量を225万トン（前年度比0.6%増）と見込んでいる。また、SRAは2月初旬、国内供給の安定化を図るため、同年度の国内供給向けの砂糖の割当数量を砂糖生産量の92%から同94%に引き上げることを決定した。これにより、砂糖の輸出は特恵的な関税枠を有する米国向けのみとなり、砂糖輸出量は、14万トン（同16.7%減）と大幅な減少が見込まれている。

また、SRAは1月、国営のフィリピン土地銀行と連携し、サトウキビ産業振興法に基づくプログラムの一環として、総額3億フィリピンペソ（7億2900万円（2017年1月末日TTS：1フィリピンペソ=2.43円））をサトウキビの生産支援や機械の導入などへの融資の財源に充てることを決定した。近年、政府は、小規模生産者が集落単位で共同体を形成し、労働力や機械の共同化を図ることでサトウ

キビの生産性向上や収益確保を目指すブロックファーマーリングを推し進めている。SRAに登録されているサトウキビ生産者や大規模農園の協同組合などであれば、この融資の対象となる。

（注）砂糖の供給管理政策など国内砂糖産業の管理・監督などを実施する政府機関。

表8 フィリピンの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (11月予測)	2016/17 (2月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	435	435	420	422	422	0.4
サトウキビ生産量	31,874	32,369	30,849	30,619	30,619	▲ 0.7
砂糖	生産量	2,451	2,321	2,239	2,250	▲ 1.7
	輸入量	25	36	242	300	23.9
	消費量	2,369	2,436	2,348	2,425	0.1
	輸出量	369	47	168	140	▲ 16.7
	期末在庫量	666	541	506	556	516
期末在庫率	28.1	22.2	21.5	22.9	21.9	1.9

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, February 2017]